

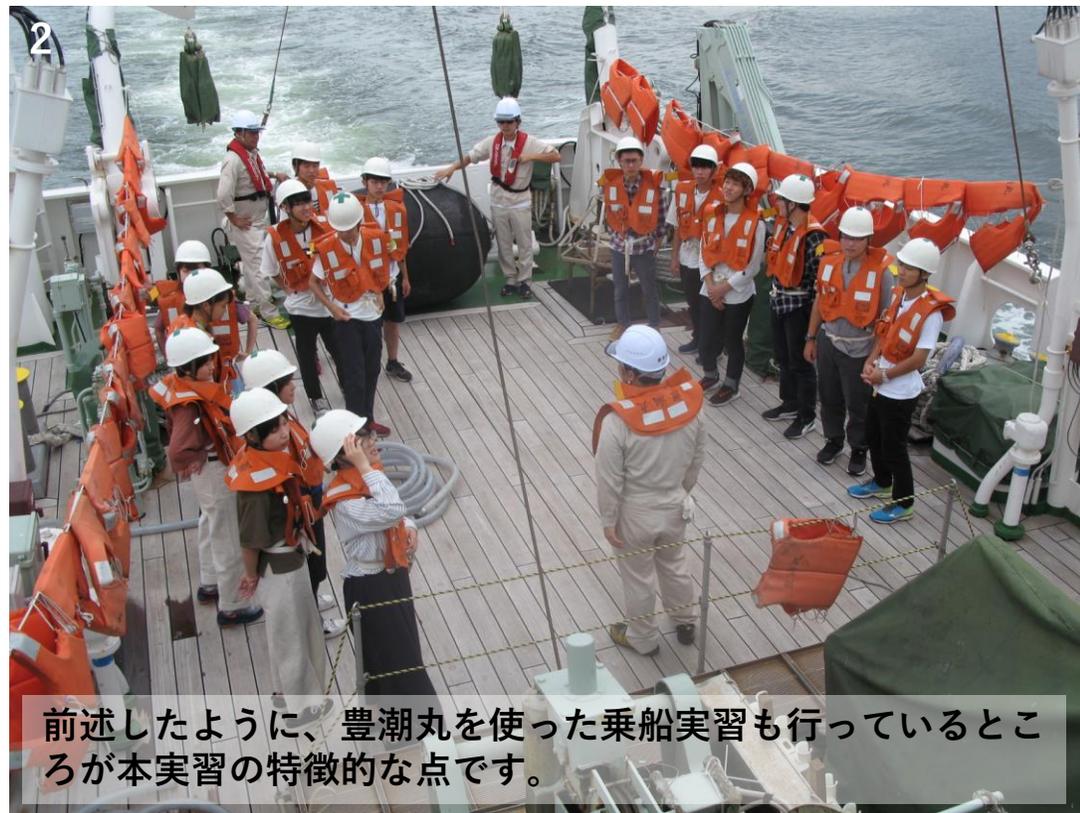
2019年(令和元年)9月4日(水) - 5日(木)

中国・四国地方の大学から大学生16名が、里海フィールド演習*の一環で竹原ステーションへ来所しました。前日2日、3日は広島大学が所有する実習船「豊潮丸」での乗船実習が行われていました。



* 本演習は、瀬戸内海における里海フィールド教育拠点として、単位互換のある他大学向け演習として開講されています。他大学農学系(非水産学専攻)の学生に対して里海に関する構造と機能を学ぶためのフィールド教育を実践しています。

- A: 講義室で施設説明を受ける参加学生。
- B, C: 近藤助教による講義風景。講義内容は「藻場と魚」について。
- D: 食堂での他大学生同士の談笑風景。他大学から複数の大学生が参加する本実習では、学生間の交流を通じてコミュニケーション力の練磨、学生のチームワークやリーダーシップ力の向上を図ることも目指しています。
- E: 最終日の発表会に向けての実習レポート作成風景。



竹原ステーションに來所する2日前に行われた實習の様子。

- 1: 救命胴衣着用講習の様子。
- 2-4: 甲板作業風景。
- 5: 本實習に使用された實習船「豊潮丸」と参加實習生。



前述したように、豊潮丸を使った乗船實習も行っているところが本實習の特徴的な点です。





F



G

ここからは再び竹原ステーションでの
実習風景.

F-G: 竹原ステーションが所有する実
習船「からぬす丸」乗船風景. 地引網
実習を行うため、本船で瀬戸内海の
島(生野島)に渡りました.

H: 地引網について説明する近藤助教.
I: 近藤助教の指示の下、網を設置す
る受講生とスタッフ(TA).

J: 生野島での他大学生同士の団らん
風景.



H



I



J

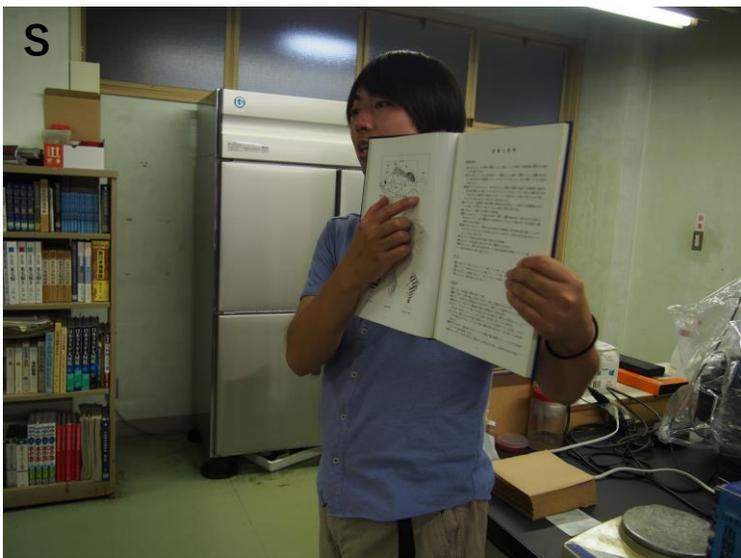


J-M:地引網実習の様子.

M: 網にかかった魚をたらいに移す様子. 矢印先端に大きな魚(アイゴ)が見えます. 実習を安全に行うために、危険な魚種が含まれていないかスタッフ(TA)が十分確認して行いました.

N: 地引網で採集された生き物を観察する受講生.

O: 地引網実習終了後、波打ち際で休憩する受講生ら.



アイゴの消化管内容物をこの後観察しました。

P-Q: 魚類観察実習風景. 地引網で採集した魚を班ごとに持ち帰り図鑑を用いて種同定を行いました.

R: 種同定した魚種を班ごとに黒板に書く実習生. これにより班間での情報の共有化を図りました.

S: 魚類の計測形質について図鑑を用いて説明する近藤助教.

T: ノギスの使い方 (目盛りの読み方) を確認し合う実習生.

U: アイゴの体長を図る実習生.



U: バットに並べられたアイゴ.

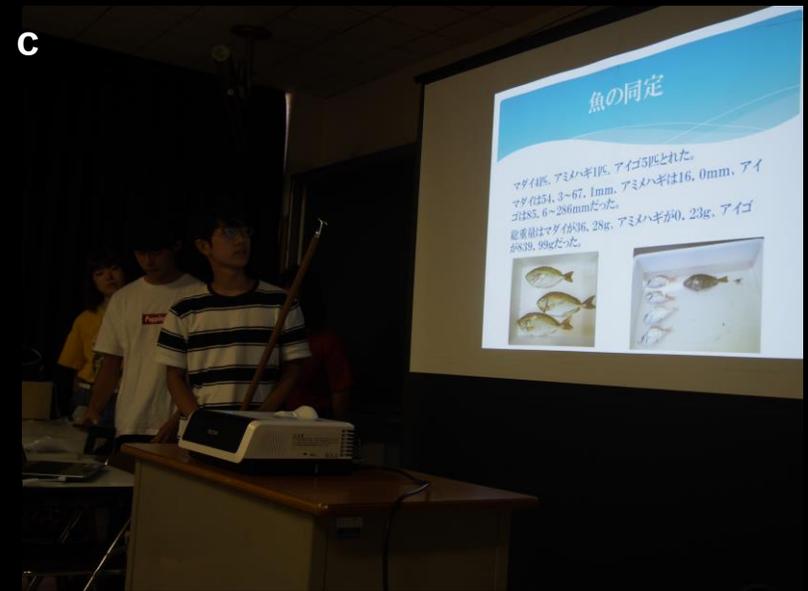
W: 摘出されたアイゴの消化管を観察する実習生.

X-1: 摘出されたアイゴの消化管内容物を観察するため解剖する実習生.

X-2: アイゴの消化管内容物. 海草および海藻の断片が多く見られた. 実習生らは本種の消化管の長さや食性について考察を行った.

Y: 得られたデータをエクセルに打ち込みデータシート化した.

Z: 種ごとに湿重量の測定が行われた.



a - e: 発表会の様子. 4日間の実習を班ごとにスライドにまとめ、発表しました(発表時間 8 min、質疑応答 2 min).
f: 全日程終了後(発表会后)近藤助教から参加者それぞれに終了証が手渡されました.